



## Resource Manager 設定での Cisco MXE 3500 の展開

この項では、次のトピックを扱います。

- 「Cisco MXE 3500 Resource Manager 展開の概要」 (P.2-1)
- 「Resource Manager 展開に関するガイドライン」 (P.2-2)
- 「Resource Manager の展開手順の特定」 (P.2-3)
- 「Cisco MXE 3500 ユーザ インターフェイスへのアクセス」 (P.2-5)
- 「Resource Manager デバイスへのライセンスのインストール」 (P.2-5)
- 「システム管理 E メール通知の有効化」 (P.2-9)
- 「サービス アカウントの確認」 (P.2-9)
- 「フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成」 (P.2-10)
- 「管理ツールを使った Resource Manager デバイスの設定」 (P.2-10)
- 「Resource Manager の展開の確認」 (P.2-22)

## Cisco MXE 3500 Resource Manager 展開の概要

Cisco MXE 3500 Resource Manager (Resource Manager) 展開は、ユーザ アカウント、ジョブ プロファイル、ライセンス機能、ユーザ インターフェイスを一式持つ単一のグループとして実行中の、1 つまたは複数の Cisco MXE 3500 デバイスによって構成されます。また、Resource Manager は、特定の役割や、Web UI の特定のセクションへのアクセス権を持つユーザの作成などの、ユーザ管理機能を提供します。

Resource Manager 展開内には、単一の Resource Manager および最大 9 つの Resource Node、2 種類の Cisco MXE 3500 デバイスがあります。

- Resource Manager : 同じ Cisco MXE 3500 デバイス上で Enterprise Control System (ECS; エンタープライズ コントロール システム)、Configuration and Monitoring (CAM; 設定およびモニタリング) サービス、Local Control System (LCS; ローカル コントロール システム) コンポーネントを実行し、グループ内のすべての Resource Node を認識します。Resource Manager は、Resource Node にさまざまなトランスコード ジョブを割り当て、Resource Manager で Resource Node ごとに設定した容量、制限、費用の値に基づいてジョブ負荷を均一に分散することで、マルチノード マネージャとして機能します。

- Resource Node : LCS コンポーネントのみを実行し、トランスコード ジョブを実行します。1 つの Resource Manager デバイスは、それ自身も 1 個のノードとして含めて、最大 10 個の Resource Node をサポートできます。Resource Manager は LCS も実行するため、Resource Node として機能しジョブを処理できることに留意してください。



(注)

Cisco MXE 3500 コンポーネントの詳細については、[Cisco.com](http://Cisco.com) の『*User Guide for Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照するか、UI の [Help] をクリックしてください。

## Resource Manager 展開に関するガイドライン

Resource Manager 展開には、次の設定に関するガイドラインおよび制約事項が適用されます。

- 購入したすべての Resource Node を含む Resource Manager 展開のためのライセンスを取得するには、次の手順に従って製品ライセンス登録を完了する必要があります。
  - Resource Manager デバイスの MAC アドレスを入力して、製品ライセンス登録を完了します。E メールでライセンスが届いたら、登録は完了です。このライセンスには Resource Node が関連付けられていないため、インストールしないでください。
  - Resource Manager で入力した際と同じ MAC アドレスを入力して、Resource Node の製品ライセンス登録を完了します。Resource Node が 1 つだけの場合は、このライセンスをインストールします。それ以外の場合は、ライセンスを廃棄します。
  - グループ内のすべての Resource Node について、1 つずつ登録処理を完了します。登録およびライセンスの取得が 1 つ終わってから、次の Resource Node の登録処理に進みます。最後の登録処理のライセンス ファイルを取得したら、ライセンス ファイルを保存します。これが、Resource Manager にインストールするライセンスです。
- Resource Manager および Resource Node は、出荷時に同じホスト名 **mxe3500** が設定されています。ホスト設定を設定する前に、ホスト名を各デバイス上で一意の名前に変更する必要があります。
- Resource Manager および Resource Node は、DHCP が有効の状態でも出荷されています。固定 IP アドレスを使用する場合は DHCP を無効にし、各デバイスに IP アドレスを割り当ててからホスト設定を設定します。
- ノードは、すべてネットワークを介して読み取り可能である必要があるため、Resource Manager で設定するパスはローカルパスではなく、すべて UNC パスにする必要があります。
- MXE-Service は、すべての MXE サービスにログインするために使用するデフォルトのユーザーアカウントです。MXE-Service には、すべての設定された UNC パスおよび IIS への読み取り/書き込みアクセス権がある必要があります。このアカウントは、削除または変更しないでください。**Cisco MXE 3500 が機能しなくなる場合があります。**
- メディア ファイルの転送のため、Resource Manager と Resource Node は同じ LAN 上に置くことを推奨します。ネットワーク遅延がある場合、ジョブがタイムアウトし、エラーが発生する可能性があります。
- Resource Node がエラーになった場合はジョブは失われず Resource Manager によって使用可能な他の Resource Node へ転送されますが、Resource Manager がエラーになった場合はフェールオーバーは発生しません。
- ライセンス機能を有効にするには、機能ライセンスを Resource Manager にインストールする必要があります。ライセンス機能の展開の詳細については、第 3 章「[Cisco MXE 3500 にライセンスされる機能の展開](#)」を参照してください。

# Resource Manager の展開手順の特定

Cisco MXE 3500 は、システムを使用する前に次の必須手順を実行する必要がある状態で出荷されています。また、省略可能な展開手順も含まれています。



(注) 展開を開始する前に、「[3 つのノードの Resource Manager の展開ワークフロー例](#)」(P.2-3) の展開ワークフロー例を参照してください。

## 必須の展開手順

- 「[Resource Manager デバイスへのライセンスのインストール](#)」(P.2-5)
- 「[入力および出力メディア ディレクトリの設定](#)」(P.2-9)
- 「[システム管理 E メール通知の有効化](#)」(P.2-9)
- 「[Resource Manager 展開のシステム設定](#)」(P.2-15) の設定
- 「[ユーザ設定](#)」(P.2-18) の設定

## 省略可能な展開手順

- 「[サービス アカウントの確認](#)」(P.2-9)
- 「[フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成](#)」(P.2-10)
- 「[Resource Manager の展開の確認](#)」(P.2-22)
- 「[Cisco MXE 3500 にライセンスされる機能の展開](#)」(P.3-1)

## 3 つのノードの Resource Manager の展開ワークフロー例

次の表では、Resource Manager ノードと 2 つの Resource Node を含む、3 つのノードの Resource Manager を新しく展開する場合に完了しなければならない必須手順を示したワークフロー例について説明します。

一	タスク	リソース
ステップ 1	次の手順に従って、Resource Manager デバイスをセットアップします。 <b>a.</b> 一意の TCP/IP ホスト名を設定します。 <b>b.</b> 固定 IP アドレスを使用する場合、DHCP を無効にして IP アドレスを割り当てます。	『 <a href="#">Quick Start Hardware Installation Guide for Cisco Media Experience Engine 3500</a> 』
ステップ 2	次の手順に従って、Resource Node をセットアップします。 <b>a.</b> 一意の TCP/IP ホスト名を設定します。 <b>b.</b> 固定 IP アドレスを使用する場合、DHCP を無効にして IP アドレスを割り当てます。	『 <a href="#">Quick Start Hardware Installation Guide for Cisco Media Experience Engine 3500</a> 』

一	タスク	リソース
ステップ 3	<p>次の手順に従って、Resource Manager ライセンスを入手します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Resource Manager MAC アドレスを入手します。 注：要求する各ライセンスについて、同じ MAC アドレスを使用する必要があります。</li> <li>2. Resource Manager デバイスの PAK を入手します。</li> <li>3. Resource Manager デバイスを Cisco.com で登録します。</li> <li>4. Resource Manager ライセンスを E メールで入手します。このライセンスは、1 つのノードとしての Resource Manager デバイスに対してのみ有効です。このライセンスを廃棄します。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ソフトウェア ライセンス権利証明書</li> <li>• Resource Manager の製品認証キー (PAK)</li> <li>• 「Resource Manager MAC アドレスの入手」 (P.2-6)</li> <li>• 「Resource Manager のライセンスの取得」 (P.2-7)</li> </ul>
ステップ 4	<p>次の手順に従って、2 つの追加の Resource Node を含む、更新された Resource Manager ライセンスを入手します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Resource Manager ライセンスを入手する際に使用した Resource Manager MAC アドレスを入手します。</li> <li>2. Resource Node の PAK を入手します。</li> <li>3. Resource Manager デバイス用の同じ MAC アドレスを使用し、Resource Node を Cisco.com で登録します。</li> <li>4. 更新された Resource Manager ライセンスを E メールで入手します。このライセンスは Resource Manager ノードと 1 つの Resource Node の合計 2 つのライセンス取得済みノードに対してのみ有効です。このライセンスを廃棄します。</li> <li>5. 2 番目の Resource Node について、手順 1～手順 3 を繰り返します。この際、正しい PAK および MAC アドレスを使用します。</li> <li>6. 更新された Resource Manager ライセンスを E メールで入手します。このライセンスは Resource Manager と 2 つの Resource Node の合計 3 つのライセンス取得済みノードに対して有効です。これが、Resource Manager デバイスにインストールするライセンスです。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ソフトウェア ライセンス権利証明書</li> <li>• Resource Node の PAK</li> <li>• 「Resource Manager MAC アドレスの入手」 (P.2-6)</li> <li>• 「Resource Manager のライセンスの取得」 (P.2-7)</li> </ul>

一	タスク	リソース
ステップ 5	Resource Manager デバイスにライセンスをインストールします。	「Resource Manager へのライセンスのインストール」 (P.2-8)
ステップ 6	Resource Manager デバイスで、次の必須設定を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>入力および出力ディレクトリ</li> <li>E メール サーバ</li> <li>システム設定</li> <li>ホスト設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「入力および出力メディア ディレクトリの設定」 (P.2-9)</li> <li>「システム管理 E メール通知の有効化」 (P.2-9)</li> <li>「Resource Manager 展開のシステム設定」 (P.2-15) の設定</li> <li>「ユーザ設定」 (P.2-18) の設定</li> </ul>

## Cisco MXE 3500 ユーザ インターフェイスへのアクセス

Resource Manager デバイスでのユーザ インターフェイスへのアクセスの詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「Cisco MXE 3500 の Web ユーザ インターフェイスへのアクセス」 (P.1-2) を参照してください。



(注)

- Cisco MXE 3500 ユーザ インターフェイスへは、Resource Manager デバイスでのみアクセスできません。Resource Node ではアクセスできません。
- 各アプライアンスのデスクトップには、アプライアンスの Cisco MXE 3500 デバイス タイプを特定し識別しやすくするため、「Resource Manager」または「Resource Node」のどちらかのグラフィックが表示されます。このデスクトップ背景イメージは、削除しないことを推奨します。また、有効化されているサービスによってノードの機能を確認することもできます。「サービス アカウントの確認およびデバイス タイプの特定」 (P.1-9) も参照してください。

## Resource Manager デバイスへのライセンスのインストール

Resource Manager 展開の場合、ライセンスは Resource Manager デバイスにのみインストールします。Resource Node にはライセンスをインストールする必要はありませんが、グループ内の各ノードを登録し、購入したすべてのノードをサポートする Resource Manager ライセンスを入手する必要があります。

この項では、次のトピックを扱います。

- 「Resource Manager MAC アドレスの入手」 (P.2-6)
- 「Resource Manager のライセンスの取得」 (P.2-7)
- 「Resource Manager へのライセンスのインストール」 (P.2-8)

## Resource Manager MAC アドレスの入手



(注)

ライセンス処理では、Cisco MXE 3500 の 2 つのイーサネット MAC アドレスのうちどちらかを指定する必要があります。また、使用する MAC アドレスを一度選択すると、初期またはアップグレードのすべてのライセンス要求において、同じ MAC アドレスを使用する必要があります。

### 手順

**ステップ 1** Resource Manager デバイスを起動します。



ヒント

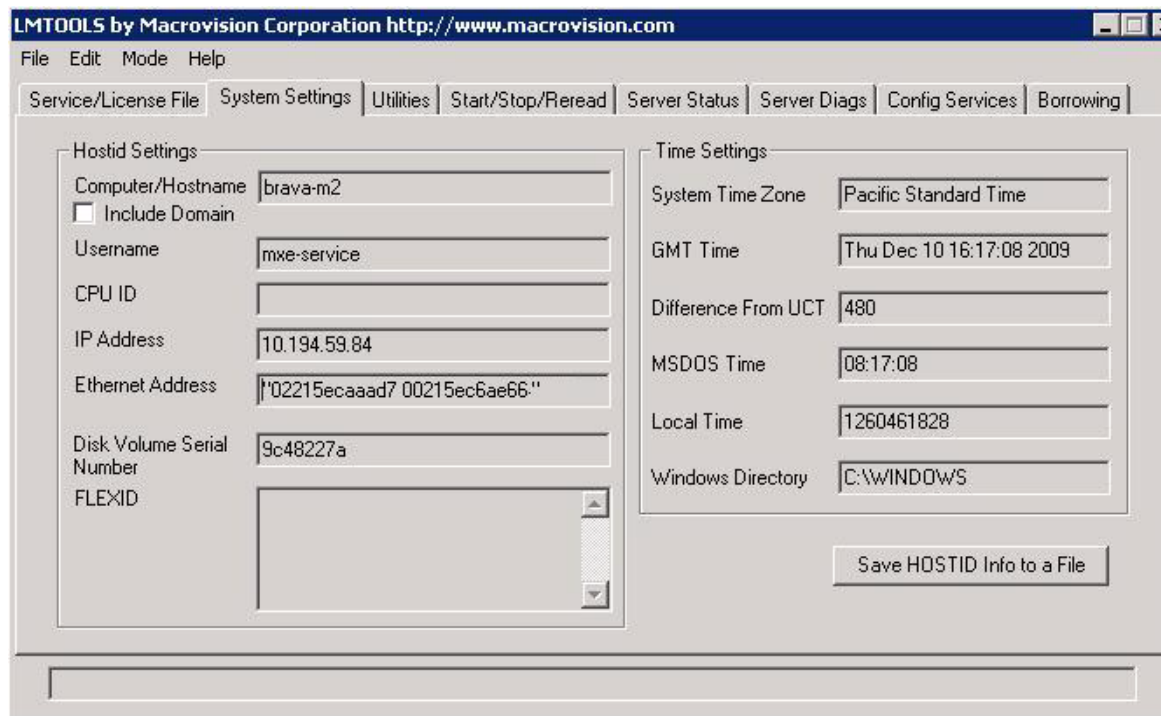
このデバイスのデスクトップ イメージには、Resource Manager が表示されています。

**ステップ 2** **C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\bin** へ移動します。

**ステップ 3** **lmttools.exe** をダブルクリックします。

**ステップ 4** [System Settings] タブを選択します (図 2-1 を参照)。

図 2-1 [System Settings] タブ





- ステップ 5** [Ethernet Address] フィールドで引用符の間に表示されているイーサネットアドレスのうち 1 つをコピーします。この数字を使用して Cisco MXE 3500 Resource Manager のライセンスを生成します。「Resource Manager のライセンスの取得」(P.2-7) も参照してください。



**ヒント** MAC アドレスおよびイーサネットアダプタの状態は、コマンドプロンプトを起動して **ipconfig /all** コマンドを実行することで確認できます。コマンドプロンプトは、デスクトップの [Command Prompt] ショートカットをダブルクリックして起動します。コマンド出力には、各イーサネットアダプタの状態および MAC アドレス（「Physical Address」の下）が表示されます。

## Resource Manager のライセンスの取得

Cisco.com Web サイトから Resource Manager 展開のライセンスを取得するには、まず Resource Manager デバイスを登録し、次に Resource Manager デバイスの MAC アドレスを使用して、購入した各 Resource Node を登録する必要があります。

この登録処理は、購入した Resource Node の数を Resource Manager デバイスの MAC アドレスに関連付けるために必要です。この関連付けを行うと、登録で使用する E メールアドレスに複数のライセンスが送信されます。



(注)

ライセンス処理では、Cisco MXE 3500 の 2 つのイーサネット MAC アドレスのうちどちらかを指定する必要があります。また、MAC アドレスを一度指定すると、初期またはアップグレードのどちらのライセンス要求においても、同じ MAC アドレスを指定する必要があります。

最初に Resource Manager デバイスの登録を完了し、その登録処理のライセンスを入手する必要があります。その後、Resource Node を登録し、1 つずつ登録を完了して、更新されたライセンス ファイルを入手します。最後に完了した登録処理で受け取ったライセンスを、Resource Manager デバイスにインストールします。

### 作業を開始する前に

- ライセンス Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のアカウントが必要です。
- Resource Manager デバイスの Cisco MXE 3500 MAC アドレスを入手します。「Resource Manager MAC アドレスの入手」(P.2-6) も参照してください。
- Resource Manager デバイスと Resource Node の製品認証キー (PAK) を入手します。PAK は、デバイスに付属するソフトウェア ライセンス権利証明書に記載されています。
- Resource Manager 展開のライセンス処理手順を理解していることを確認します。「Resource Manager 展開に関するガイドライン」(P.2-2) も参照してください。

### 手順

- ステップ 1** <http://www.cisco.com/go/license> にアクセスします。
- ステップ 2** Resource Manager デバイスの PAK を入力します。または、すでに Resource Manager のライセンスを取得している場合は、Resource Node の PAK を入力します。
- ステップ 3** Resource Manager デバイスを使用して登録 Web サイトにアクセスしている場合は、Enter キーを押します。そうでない場合は、[Submit] ボタンをクリックします。

- ステップ 4** 画面の指示に従って、プロンプトが表示されたら、Resource Manager デバイスの MAC アドレスを使用します。
- ステップ 5** 登録後、ライセンス ファイルが添付された E メールが届きます。
- a. ライセンス ファイルが Resource Manager デバイスのみに対するものである場合は、このライセンスを破棄します。Resource Node の PAK を使用し、**ステップ 1** に戻って Resource Node の登録処理を完了します。
  - b. このライセンスファイルが Resource Node に対するもので、登録する追加の Resource Node がある場合は、このライセンスを破棄します。Resource Node の PAK を使用し、**ステップ 1** に戻って別の Resource Node の登録処理を完了します。
  - c. このライセンスファイルが最後の Resource Node に対するものの場合は、ライセンス ファイルを保存します。このライセンス ファイルには、グループ内の Resource Manager デバイスと各 Resource Node に対する有効なライセンスが含まれているため、このライセンスを Resource Manager デバイスにインストールします。



**(注)** ライセンス ファイルは安全な場所に保存することを推奨します。ライセンス ファイルを紛失すると、再度複製を入手するのに最大 1 営業日かかる場合があります。

#### トラブルシューティングに関するヒント

登録 Web サイトに関して問題が発生した場合や、その他の質問がある場合に、すぐに回答を得るには、<http://tools.cisco.com/ServiceRequestTool/create/DefineProblem.do> の TAC Service Request ツールを使用して Service Request を開きます。

有効な Cisco ID およびパスワードをお手元にご用意ください。または、以下の電話番号のいずれかに問い合わせることもできます。

- アジア太平洋 : +61 2 8446 7411 (オーストラリア : 1 800 805 227)
- EMEA : +32 2 704 55 55
- 米国 : 1 800 553-2447

Cisco TAC の連絡先一覧は、<http://www.cisco.com/techsupport/contacts> で確認できます。

## Resource Manager へのライセンスのインストール

#### 作業を開始する前に

- Resource Manager デバイスの Cisco MXE 3500 ライセンス ファイルを入手します。  
「[Resource Manager のライセンスの取得](#)」(P.2-7) も参照してください。
- ライセンス ファイルは、Resource Manager デバイスのみにインストールします。

#### 手順

- ステップ 1** Resource Manager デバイスにログインします。
- ステップ 2** 生成された mxe.lic ファイルを、ライセンス ディレクトリ (C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\license) にコピーします。



ステップ 3 Resource Manager デバイスを再起動します。

## 入力および出力メディア ディレクトリの設定

Resource Manager で入力および出力メディアを管理するには、入力および出力ディレクトリを設定する必要があります。

### 作業を開始する前に

設定するディレクトリが存在し、共有されていることを確認します。

### 手順

- ステップ 1 Resource Manager で <http://localhost/mxeUI> から UI にログインします。または、デスクトップの [Cisco MXE Web Interface] アイコンをクリックします。
- ステップ 2 ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [System] をクリックします。
- ステップ 3 [Input] セクションの以下のフィールドに、ノードが入力メディアを取得するディレクトリを入力します。詳細については、「[\[Input\] セクション](#)」(P.2-15) を参照してください。
  - [Bumper]
  - [common]
  - [Media]
  - [Watermark]
- ステップ 4 [Output] セクションのすべてのフィールドに、ノードが出力メディアを保存するディレクトリを入力します。詳細については、「[\[Output\] セクション](#)」(P.2-17) を参照してください。
- ステップ 5 [Save] をクリックします。

## システム管理 E メール通知の有効化

Resource Manager デバイスでの E メール通知の設定の詳細については、第 1 章「[スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開](#)」の「[システム管理 E メール通知の有効化](#)」(P.1-7) を参照してください。



(注)

ジョブの完了または失敗の通知を受け取ることができるように、E メール サーバを設定することを推奨します。

## サービス アカウントの確認

Resource Manager または Resource Node のサービス アカウントの詳細については、第 1 章「[スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開](#)」の「[サービス アカウントの確認およびデバイス タイプの特定](#)」(P.1-9) を参照してください。



(注) MXE-Service には、すべての設定された UNC パスおよび IIS への読み取り/書き込みアクセス権がある必要があります。



ヒント

どのサービスが有効になっているかを確認することで、Cisco MXE 3500 のデバイス タイプ (Resource Manager または Resource Node) を判断できます。

## フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成

Resource Manager デバイスでのフォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「フォルダ アテンダント ディレクトリおよびウォッチの作成」(P.1-11) を参照してください。



(注) サービス アカウントに、フォルダ アテンダント ディレクトリのディレクトリ パスとして設定する UNC パスへの、適切なアクセス権があることを確認してください。「サービス アカウントの確認およびデバイス タイプの特定」(P.1-9) も参照してください。

## 管理ツールを使った Resource Manager デバイスの設定

ツールボックスの [Administration] セクションでは、以下の設定を設定できます。

- 「Resource Manager 展開のホスト設定」(P.2-10)
- 「Resource Manager 展開のシステム設定」(P.2-15)
- 「ユーザ設定」(P.2-18)
- 「役割設定」(P.2-19)
- 「プロファイル スペース設定」(P.2-21)
- 「ユーザ メタデータ設定」(P.2-21)
- 「IP キャプチャ設定」(P.2-22)



(注) これらの設定を設定するには、管理ツール権限が必要です。

## Resource Manager 展開のホスト設定

[Host Administration] ページでは、管理者がネットワーク上のコンピュータで作業するように Cisco MXE 3500 を設定できます。ホストとは、Cisco MXE 3500 を実行しているコンピュータまたはシステムを言い換えただけの用語です。[Host Administration] ページは、ホストが実行できる機能 (マシンの負荷容量およびインストールされているソフトウェア) をエンタープライズ コントロール システム (ECS) に指示するために使用します。

このページへは、ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [Host] をクリックしてアクセスできます。ホストを選択して、そのホスト上で設定されているワーカーの概要情報の表示、ホストの削除、ホストの設定の編集を実行します。

「Resource Manager 展開のホスト設定の設定」(P.2-14) および「容量、費用、および制限について」(P.2-13) も参照してください。

図 2-2 は、ホスト設定を示しています。

図 2-2 Resource Manager 展開のホスト設定

The screenshot shows the 'Host Administration' window in the Resource Manager software. The 'Toolbox' on the left has 'Host' selected under the 'Administration' category. The main window displays the 'Host Administration' section for a host named 'brava-m6:3500'. The 'Configured Hosts' table shows the host is 'Enabled' on port '3500' with a capacity of '10' and a temp directory of 'Wmxe3000Ctemp'. Below this, the 'Workers' section shows a table of workers for the host, including 'captionextract', 'capturePrefilter', 'fileman', 'filemanAdv', and 'flash', with columns for 'Licensed', 'Limit', 'Expense', 'Capture Name', and 'Capture Type'.

Host	Status	Port	Capacity	Temp Directory (UNC Name)
MXE3000C	Enabled	3500	10	Wmxe3000Ctemp

Worker	Licensed	Limit	Expense	Capture Name	Capture Type
✓ captionextract	20	2	2		
✗ capturePrefilter	5	1	1		
✗ capturePrefilter	5	1	1		
✓ fileman	20	4	0		
✓ filemanAdv	20	2	2		
✓ flash	2	2	2		

表 2-1 は、ホスト設定を説明しています。

表 2-1 Resource Manager 展開のホスト設定および説明

設定	説明
Host	<p>Resource Manager または Resource Node デバイスのホスト名またはコンピュータ名です。コンピュータ名とホスト名は正確に一致している必要があります。</p> <p>(注) グループ内の Resource Manager および各 Resource Node は、一意の名前を持つ必要があります。</p> <p>ヒント Windows Server コンピュータの名前を確認するには、デスクトップまたは [Start] メニューの [My Computer] アイコンを右クリックし、[Properties] を選択して、[Computer Name] を選択します。または、コマンドプロンプトで hostname コマンドを入力し、コンピュータ名を表示します。</p>

表 2-1 Resource Manager 展開のホスト設定および説明 (続き)

Status	<p>ホストの状態 ([Enabled] または [Disabled]) を表示します。</p> <p>状態を変更するには、[Host] を右クリックするか [Host Options] をクリックし、[Enabled] または [Disabled] を選択します。</p> <p><b>(注)</b> 状態が無効になっている場合、その Cisco MXE 3500 ノードではジョブがスケジュールされません。</p>
Port	<p>LCN がリスンしている TCP ポートです。デフォルトは 3500 です。</p>
Capacity	<p>割り当てられている数値が、表示されているホストの使用可能な合計処理容量に反映されます。</p> <p>有効な値は、0 ~ 99 です。</p> <p>特定のホストの容量は任意の数値にできますが、すべてのホストで同じ基準に従った数値にすることが重要です。たとえば、ある特定のホストについて合計容量が 5 に設定されているか 10 に設定されているかは問題ではありません。ただし、2 倍の容量を持つ別のホストがある場合、両方のホストの容量が同じ条件で指定されている必要があります。つまり、性能が 2 倍のホストは、最初のホストが 5 であれば 10 の容量を持ち、最初のホストが 10 であれば 20 の容量を持つこととなります。</p> <p>容量は、プロセッサ容量に直接関係しますが、ドライブの速度やネットワークの輻輳などその他の要素の影響を受ける場合もあります。容量の値を割り当てる際は、特定のホストが効率的に実行できる作業量に影響するすべての要素を考慮する必要があります。</p> <p><b>(注)</b> 一般的に、5 ~ 30 の間の数値が最適です。この設定を 30 より大きな数値に設定すると、システム状態モニタの読み取りが難しくなる場合があります。</p> <p>「容量、費用、および制限について」(P.2-13) および図 2-2 「Resource Manager 展開のホスト設定」も参照してください。</p>
Temp Directory (UNC Name)	<p>ジョブ処理中に一時ファイルおよびプリプロセッサ出力を保存するディレクトリを指定します。</p> <p>このディレクトリは、他のホストがこのディレクトリに書き込まれたファイルにアクセスできるように、ローカルパスではなく UNC パスである必要があります。</p> <p>また、MXE-Service には、このディレクトリへの読み取り/書き込みアクセス権がある必要があります。</p> <p><b>(注)</b> [Output] タブの [Preprocessor] チェックボックスがオンになっていて、プリプロセッサ ファイルを保存するように指定されていない場合、一時ディレクトリへ書き込まれたファイルは、エンコード完了時に自動的に削除されます。</p>
Worker Status	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 緑色のチェックマーク：右側に一覧表示されているワーカーが、表示されているホスト上で実行するように設定されており、現在オンラインでタスクを処理可能であることを示します。</li> <li>• 赤い X：次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– 右側に一覧表示されているワーカーが、表示されているホスト上で実行するように設定されているが現在オフラインであり、ECS で連絡を取ることができないことを示します。</li> </ul> </li> </ul> <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>– ワーカーが有効になっていないか、設定されていません。</li> </ul>
Worker	<p>表示されているホスト上で実行するように設定されているすべてのワーカーの一覧を表示します。</p>

表 2-1 Resource Manager 展開のホスト設定および説明 (続き)

Licensed	このワーカー タイプ (プリフィルタ、エンコーダ、配布) の、システム (その ECS によって制御されるすべてのノード) 上で実行可能な同時インスタンス数を示します。この値は、Cisco MXE 3500 ライセンス ファイルで定義されています。
Limit	表示されているホスト上で同時に実行可能な特定のワーカーの最大数を表示します。 有効な値は、0 ~ 99 です。 「容量、費用、および制限について」(P.2-13) および図 2-2 「Resource Manager 展開のホスト設定」も参照してください。
Expense	ワーカーの費用がホスト容量の割り当てとして表示されます。 有効な値は、0 ~ 99 です。 「容量、費用、および制限について」(P.2-13) および図 2-2 「Resource Manager 展開のホスト設定」も参照してください。
Capture Name	この設定は、Cisco MXE 3500 Release 3.0 では使用できません。 ライブ キャプチャ ワーカーに関連付けられる名前を定義します。ホストは 2 つ以上のビデオ キャプチャを持つことができ、2 つ以上のライブ キャプチャ ワーカーを実行するように設定できるため、ワーカーが使用する特定のキャプチャ カードを特定するために [Capture Name] が必要です。この設定は、ライブ キャプチャ ワーカーに対してのみ表示されます。
Capture Type	この設定は、Cisco MXE 3500 Release 3.0 では使用できません。 キャプチャ カードのタイプ (DV、DVCAM、AJA-SDI、Custom など) です。カスタム以外の値を選択すると、オーディオおよびビデオ チャンネルが事前定義されます。
Video CH/Audio CH	この設定は、Cisco MXE 3500 Release 3.0 では使用できません。 各ライブ キャプチャ ワーカーのビデオ チャンネルおよびオーディオ チャンネルを表示します。

## 容量、費用、および制限について



(注)

ワーカーや ECS など、Cisco MXE 3500 コンポーネントの詳細については、Cisco.com の『*User Guide for Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照するか、UI の [Help] をクリックしてください。

「Resource Manager 展開のホスト設定」(P.2-10) も参照してください。

ECS は容量と費用を使用して、タスクを特定のホスト上の特定のワーカーに割り当て、エンコードプロセスでの効率的なジョブの進行を維持し、単一のホストの負荷が過剰にならないようにして、ボトルネックの発生を防ぎます。

容量は、プロセッサ容量に直接関係しますが、ドライブの速度やネットワークの輻輳などその他の要素の影響を受ける場合もあります。容量の値を割り当てる際は、特定のホストが効率的に実行できる作業量に影響するすべての要素を考慮する必要があります。

特定のホストの容量は任意の数値にできますが、すべてのホストで同じ基準に従った数値にする必要があります。たとえば、ある特定のホストについて合計容量が 5 に設定されているか 10 に設定されているかは問題ありませんが、2 倍の容量を持つ別のホストがある場合、両方のホストの容量が同じ条件で指定されている必要があります。つまり、性能が 2 倍のホストは、最初のホストが 5 であれば 10 の容量を持ち、最初のホストが 10 であれば 20 の容量を持つことになります。一般的に、5 ~ 30 の間の数値が適切です。

ワーカーの費用は、次の例に示すように、ホスト容量の割り当てとして示されます。

ホスト容量	必要な合計処理能力の割り当て	ワーカーの費用
100	2 分の 1	50
6	2 分の 1	3
9	3 分の 1	3
6	3 分の 1	2

費用はワーカーのタイプごとに異なり、特定のタイプのワーカーが必要とする処理能力は、いつも同じとは限りません。たとえば、MPEG エンコードはマイクロソフトのエンコードよりワーカーの負荷が大きいため、MPEG のワーカーにはマイクロソフトのワーカーより高い費用が割り当てられます。

制限は、容量および費用と共に使用して、費用の違いを調整します。たとえば、ある特定のタイプのワーカーを実行すると一定の費用量がかかり、これを 2 つ実行すると 2 倍の量が必要になります。しかし、一定の数を超えると効率性が低下する可能性があります。同じワーカーの 4 つのインスタンスがトリガされるまではすべてが良好ですが、これを超えると、ホストが完全にダウンして性能が損なわれます。この特定のワーカーの制限を 3 に設定すると、4 つのインスタンスの通常の費用を許容できる十分な容量がある場合であっても、ECS で 4 つのワーカーがトリガされなくなります。4 番目のワーカーがトリガされると費用が急激に増加するため、制限を 3 に設定することでワーカーの通常の費用のしきい値を作成し、同時に実行できるインスタンスの数に上限を設定します。

## Resource Manager 展開のホスト設定の設定

以下の手順に従って、Resource Manager デバイスを含む Resource Manager 展開内のすべてのノードのホスト設定を設定します。

「容量、費用、および制限について」(P.2-13) および「Resource Manager 展開のホスト設定」(P.2-10) も参照してください。

### 作業を開始する前に

1. TCP/IP ホスト名を各 Cisco MXE 3500 デバイス上で一意の名前に変更したことを確認します。これらの名前は、ホスト設定の設定中に使用します。
2. ホスト設定の設定は、Resource Manager デバイスおよび各 Resource Node の両方で必要です。
3. Resource Manager デバイスのホスト設定は、Resource Node の設定を設定する前に行います。

### 手順

**ステップ 1** ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [Host] をクリックします。「ユーザ設定」(P.2-18) も参照してください。

**ステップ 2** 次の手順に従って、新しいホストを作成します。

- a. [Host Administration] メニューから、[Host Options] の右にある矢印をクリックしてから、[New] をクリックします。[New Host] ポップアップが表示されます。



**(注)** 最初に Resource Manager デバイスのホスト設定を設定し、次に Resource Node の設定を設定します。

- b. [Host Name] フィールドにホスト名を入力します。この名前は、Resource Manager を設定した場合、Resource Manager デバイスまたは Resource Node 用に設定した、有効なコンピュータ名である必要があります。



- c. [Capacity] を入力します。
- d. [Temp Directory] フィールドに、手順 b. で設定した、ホスト上の一時フォルダの UNC パスを、`\\host_name\temp` のように入力します。
- e. [Create] をクリックします。[Hosts] ペインに新しいホストが表示されます。

**ステップ 3** 次の手順に従って、[ステップ 2](#) で作成したホストにワーカーを追加します。

- a. ホストに割り当てる各ワーカーを選択します。
- b. [Permit] をクリックするか、[Permit All] をクリックします。



**(注)** 表示されるワーカーのリストは、ライセンス レベルによって制御されます。[Permit All] オプションを選択した場合、すべての非ライブ ワーカーのみが許可されます。ライブ ワーカーは、追加データを手作業で入力する必要があります。

**ステップ 4** 次の手順に従って、各ワーカーの [Limit]、[Expense]、およびライブ キャプチャ情報を設定します。

- a. 各ワーカーをクリックし、[Edit] をクリックします。[Edit worker] ポップアップが表示されます。
- b. [Limit] および [Expense] を入力します。
- c. ライブ キャプチャの場合は、[Capture Name]、[Capture Type]、[Video CH]、および [Audio CH] を入力します。
- d. [Save] をクリックします。

**ステップ 5** ページ上部の [Apply Configuration] をクリックします。

**ステップ 6** (省略可能) ツールボックスで、[Monitoring] を選択してから [System Status] を選択し、ノードが正常に追加されていることを確認します。ホスト名が [System Status Monitor] の最初の列に表示されます。

**ステップ 7** 購入した各ノードについて、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返します。

## Resource Manager 展開のシステム設定

ツールボックスの [Administration] セクションは、Cisco MXE 3500 Resource Manager デバイスの設定に使用します。これらの設定を設定するには、管理ツール権限が必要です。

このページへは、ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [System] をクリックしてアクセスできます。

[System] ページは、以下のセクションで構成されています。

- 「[Input] セクション」 (P.2-15)
- 「[Output] セクション」 (P.2-17)
- 「[General Settings] セクション」 (P.2-18)
- 「[Status Settings] セクション」 (P.2-18)
- 「[Data Purging] セクション」 (P.2-18)

### [Input] セクション



**(注)** ディレクトリの値は、ネットワーク共有への UNC パスである必要があります。

図 2-3 は、[Input] セクションの設定を示しています。

図 2-3 入力設定

Input	
Bumper/Trailer Directory	WMXE3000C\media
Common Directories	WMXE3000C\media
Media Directory	WMXE3000C\media
Profile Directory	C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles
Valid Input Extensions	.mov; .avi; .mpg; .mpeg; .mpv; .mpa; .m1v; .m2v; .mp2; .mp4; .m4v; .omf; .ref; .lst; .raw; .saf; .c
Watermark Directory	WMXE3000C\media

表 2-2 は、[Input] セクションの設定を説明しています。

表 2-2 Resource Manager 展開の入力設定および説明

設定	説明
Bumper/Trailer Directory	Cisco MXE 3500 でエンコードされたクリップへのバンパーまたはトレーラとして使用できるファイルの場所を定義します。[Bumper/Trailer Directory] は、Cisco MXE 3500 が [Preprocessing Profile] ページの [Bumper Source] および [Trailer Source] フィールドに表示されるファイルを検索するディレクトリパスを制御します。  [Bumper/Trailer Directory] の値は、ストレージエリアネットワーク (SAN) を使用した展開または単一ノード展開の場合、ネットワーク共有またはマップされたドライブのいずれかへの UNC パスとして入力できます。[Bumper/Trailer Directory] の場所は、すべてのホストへアクセス可能な場所である必要があります。
Common Directories	メディアファイルが保存されるディレクトリを定義します。複数のディレクトリを定義できます。セミコロンを使用して、ディレクトリの入力を区切ります。ディレクトリの値は、ネットワーク共有への UNC パスである必要があります。
Media Directory	Cisco MXE 3500 へ送信されるメディアファイルが保存されるディレクトリを定義します。[Media Directory] は、Cisco MXE 3500 が [File Submission] ページの [Source] ボックスに表示されるファイルを検索するディレクトリパスを制御します。  [Media Directory] の値は、ストレージエリアネットワーク (SAN) を使用した展開または単一ノード展開の場合、ネットワーク共有またはマップされたドライブのいずれかへの UNC パスとして入力できます。[Media Directory] は、すべてのホストへアクセス可能な共有された場所である必要があります。  ディレクトリの値は、ネットワーク共有への UNC パスである必要があります。
Profile Directory	ECS が、送信されたジョブを処理する際にジョブプロファイルを検索するために使用するデフォルトパスを定義します。

表 2-2 Resource Manager 展開の入力設定および説明 (続き)

Valid Input Extensions	共通ディレクトリ内のファイルの有効な拡張子の一覧を定義します。このフィールドの一覧にある拡張子を持つファイルのみが、[File Job Submission] フォームの [Input] セクションの [Selection List] ウィンドウに表示されます。ファイル拡張子の入力、セミコロンで区切ります。
Watermark Directory	Cisco MXE 3500 でエンコードされたクリップへのウォーターマークとして使用できるファイルの場所を定義します。ウォーターマークは、Cisco MXE 3500 が、[Preprocessing Profile] ページの [Watermark] セクションの [Source] ドロップダウンに表示されるファイルを検索するディレクトリパスを制御します。  ディレクトリの値は、ネットワーク共有への UNC パスである必要があります。[Watermark Directory] の場所は、すべてのホストへアクセス可能な場所である必要があります。

## [Output] セクション

出力ディレクトリは、Cisco MXE 3500 が、Cisco MXE 3500 システムのライセンス レベルによってサポートされている各エンコード形式のファイルを保存するために使用する場所を定義します。エンコードされたファイルは、[Distribution] > [Output Profile] がジョブ プロファイルに含まれていないか、[Output Profile] の [Save Local File] のチェックボックスがオンになっているかのいずれかの場合、定義されたディレクトリに保存されます。



(注) すべてのディレクトリの値は、ネットワーク共有への UNC パスである必要があります。

図 2-4 は、[Output] セクションの設定を示しています。

図 2-4 出力設定

Output	
Flash7 Output Directory	\\MXE3000C\output
Flash8 Output Directory	\\MXE3000C\output
H264 Output Directory	\\MXE3000C\output
Indexing Output Directory	\\MXE3000C\output
Microsoft Output Directory	\\MXE3000C\output
MP3 Output Directory	\\MXE3000C\output
MPEG Output Directory	\\MXE3000C\output
QuickTime Output Directory	\\MXE3000C\output
QuickTime Temp Directory	\\MXE3000C\output
Real Output Directory	\\MXE3000C\output
Speech To Text Output Directory	\\MXE3000C\output
Thumbnail Output Directory	\\MXE3000C\output
WAV Output Directory	\\MXE3000C\output

## [General Settings] セクション

Resource Manager デバイスでの全般設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「[General Settings] セクション」(P.1-22) を参照してください。

## [Status Settings] セクション

Resource Manager デバイスでの状態設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「[Status Settings] セクション」(P.1-23) を参照してください。

## [Data Purging] セクション

Resource Manager デバイスでのデータ パージ設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「[Data Purging] セクション」(P.1-24) を参照してください。

## [Audio Capture] セクション

Resource Manager デバイスでのオーディオ キャプチャ設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「[Audio Capture] セクション」(P.1-25) を参照してください。

## ユーザ設定

[User Administration] ページは、管理者がユーザのアクセスおよび権限を設定するために使用します。このページへは、ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [User] をクリックしてアクセスできます。

[User Administration] の上のペインには、作成されたユーザが表示されます。下のペインには、各ユーザの権限が表示されます。

Cisco MXE 3500 では、事前にユーザが 1 つ定義されています。

- **admin** : デフォルトのパスワードも *admin* です。admin パスワードは、管理者がすぐに変更することを推奨します。



(注)

システムを受領した時点では、ユーザの作成、役割の割り当て、ユーザの削除、ユーザ権限の拒否または削除など、フォルダ アテンダントの管理タスクを実行できるユーザは、事前定義の管理ユーザのみです。新しい管理ユーザを 1 つ以上作成するまでは、事前定義の管理ユーザを削除しないでください。

[New User] または [Edit User] ポップアップ (図 2-5 を参照) では、システム ユーザを作成および変更できます。

図 2-5 ユーザ設定

表 2-3 は、これらの設定を説明しています。

表 2-3 ユーザ設定および説明

設定	説明
User Name	メニュー バーで、[New] をクリックするか、ユーザを選択して [Edit] をクリックします。[New User] または [Edit User] ポップアップが表示されます。ユーザの名前を入力します。
Password	新しいユーザのパスワードを入力します。
Confirm Password	確認のため、パスワードを再入力します。
First Name	ユーザの名を入力します。
Last Name	ユーザの姓を入力します。
E-mail	ユーザの E メール アドレスを入力します。
Role	ドロップダウン メニューから役割を選択します。役割によって、フォルダアテンダントの機能に対するユーザのアクセス レベルが決まります。役割は展開の際に定義され、通常は管理者およびユーザです。

## 役割設定

各 Cisco MXE 3500 ユーザは、さまざまなシステム機能へのアクセス レベルを制御する役割を割り当てられます。

[Role Administration] ページへは、ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [Role] をクリックしてアクセスできます。

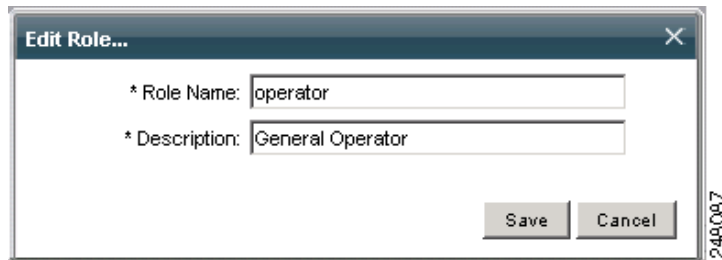
[Role Administration] ページの上のペインには、作成された役割が表示されます。下のペインには、各役割の権限が表示されます。

次の 3 つの事前定義された役割があります。

- **admin** : すべての機能にアクセスできる権限が設定されます。
- **operator** : ジョブ プロファイル編集にはアクセスできますが、タスク プロファイル編集にはアクセスできない権限が設定されます。
- **user** : 管理機能以外のすべての機能にアクセスできる権限が設定されます。

[New Role] または [Edit Role] ポップアップ (図 2-6 を参照) では、システム ユーザを作成および変更できます。

図 2-6 役割設定



システム管理者は役割を作成した後、その役割の権限を設定します。各役割は、以下の Cisco MXE 3500 機能を使用する権限を許可または拒否されます。

- 管理ツール : Cisco MXE 3500 管理ツールにアクセスできます。
- フォルダ アテンダント : フォルダ アテンダントにアクセスできます。
- ジョブ プロファイル編集 : ジョブ プロファイル編集機能にアクセスできます。
- モニタリング : モニタリング機能にアクセスできます。
- モニタリング (詳細) : ユーザが再スケジュール、停止、削除などを実行できます。
- レポート : レポート機能にアクセスできます。
- 送信 : 送信ツールにアクセスできます。
- タスク プロファイル編集 : プロファイル編集機能にアクセスできます。

選択した役割の権限は、[Role Administration] ページの一番下に表示されます。

表 2-4 は、権限の表の列を説明しています。

赤い X は、その機能に対する権限が拒否されることを示します。緑のチェック マークは、選択したユーザに機能へのアクセス権限があることを示します。

表 2-4 役割設定および説明

設定	説明
Default	Cisco MXE 3500 の出荷時に設定されている権限のデフォルト値を表示します。
Role	役割に設定されている権限を表示します。役割に設定された権限は、デフォルトの権限を上書きします。この列に指定される役割の権限は、[Role Administration] ページから設定します。
User	選択されているユーザに対して設定されている権限を表示します。ユーザに対して設定された権限は、役割の権限を上書きします。
Allow	選択されているユーザに対して設定されている実際の権限です。



## プロファイル スペース設定

[Profile Administration] ページでは、システム内の複数のプロファイル ディレクトリを管理できます。Cisco MXE 3500 では、出荷時に 1 つのプロファイル ディレクトリが設定されています。プロファイル ディレクトリの初期データベース設定は、次のとおりです。

**C:\Program Files\Cisco\Media Experience Engine\profiles**

Cisco MXE 3500 は、システム設定済みのプロファイル ディレクトリを使用して、ジョブ プロファイルの一覧にアクセスします。しかし、グループ別または顧客別に、別のプロファイル ディレクトリを維持する場合があります。

プロファイル スペースは必要な数だけ作成できますが、Cisco MXE 3500 は、各プロファイル ディレクトリが存在するかを作成時に確認します。

Cisco MXE 3500 のセッションは一度に 1 つのプロファイル スペースにリンクします。それによって、プロファイル ブラウザで表示できるプロファイルが決まります。

[Profile Administration] ページへは、ツールボックスで、[Administration] をクリックしてから [User] をクリックしてアクセスできます。



ヒント

作業するプロファイル スペースは、[Tools] をクリックしてから [Select Profile Space] をクリックすることで、いつでも変更できます。

[New Profile Space] または [Edit Profile Space] ポップアップ (図 2-7 を参照) では、プロファイル スペースを作成および変更できます。

図 2-7 プロファイル スペース設定

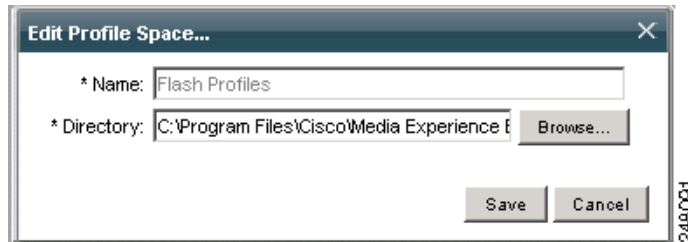


表 2-5 は、これらの設定を説明しています。

表 2-5 プロファイル スペース設定および説明

設定	説明
Name	一意の名前を入力します。
Directory	確認可能なディレクトリを入力します。

## ユーザ メタデータ設定

この [User Metadata Administration] ページでは、各ジョブ (およびジョブ内の各タスク) と共に送信できる、カスタム名と値のペアを作成できます。このカスタム メタデータは、HTTP POST ジョブ ステータス XML など、詳細なジョブ ステータスで返されます。(送信する場合) このメタデータは各ジョブのデータベースにも保存され、(送信した組織やジョブのトラッキングなどの) レポートの目的に使用したり、(HTTP POST 経由で) 他のシステム (Velocity など) に返す場合に使用できます。

Resource Manager デバイスでのユーザ メタデータ設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「ユーザ メタデータ設定」(P.1-26) を参照してください。

## IP キャプチャ設定

Cisco MXE 3500 では、UDP/IP を介してライブの MPEG2 トランスポート ストリームを、この機能の一般的な使用を可能にする管理、設定、および状態と共に取り込むことができます。IP キャプチャは、MPEG2 ビデオおよび AC3/Layer2/AES3 オーディオ エッセンスでのトランスポート ストリームに限られます。

[IP Capture Configuration] ページは、管理者が IP キャプチャ ソースを追加、編集、または削除するために使用します。

Resource Manager デバイスでの IP キャプチャ設定の設定の詳細については、第 1 章「スタンドアロン設定での Cisco MXE 3500 の展開」の「IP キャプチャ (ライブ ストリーミング) 設定」(P.1-27) を参照してください。

## Resource Manager の展開の確認

システムが正しく展開および設定されていることを確認するには、以下のテストを実行します。

- 「テスト 1 : ファイル ジョブ送信を使ったジョブの送信」
- 「テスト 2 : フォルダ アテンダントを使ったジョブの送信」
- 「テスト 3 : ライセンス機能が有効であることの確認」

### テスト 1 : ファイル ジョブ送信を使ったジョブの送信

#### 作業を開始する前に

- **C:\ProgramFiles\QuickTime** フォルダで、**Sample.mov** を選択し、このファイルを **C:\Media** フォルダへコピーします。
- **C:\media** フォルダで、グループ内の Resource Node ごとに **Sample.mov** ファイルのコピーを 1 つ作成します。たとえば、4 つのノードがある場合、4 つのコピーを作成します。

#### 手順

- 
- ステップ 1** UI にアクセスします。「Cisco MXE 3500 の Web ユーザ インターフェイスへのアクセス」も参照してください。
  - ステップ 2** ツールボックスで [Submission] を展開し、[File] をクリックします。[File Job Submission] ページが表示されます。
  - ステップ 3** [Profile] セクションで、**Cable\_Broadband.job.awp** を選択します。
  - ステップ 4** [Input] セクションで、次のタスクを実行します。
    - [Browse] をクリックします。
    - Resource\_Manager\_IP\_Address\media** へ移動し、**Sample.mov** ファイルのコピーをすべて選択します。
    - [Add File(s)] をクリックし、ファイルをメディア ディレクトリからメディア ソース ボックスへ移動します。

- ステップ 5** [Submit] をクリックします。
- ステップ 6** ツールボックスで、[View]、[Monitoring]、[Job Status] の順に選択します。
- ステップ 7** [Job Status] ウィンドウを監視して、ジョブが完了するのを確認します。
- ステップ 8** `¥¥Resource_Mananger_IP_Address¥output` へ移動し、複数の `FileName.Sample.Cable_Broadband.Cable_Broadband.wmv` ファイルを見つけてファイルを再生します。Windows Media Player で警告メッセージやアラートが表示された場合は承諾します。
- ステップ 9** Resource Node が完了したトランスコード ジョブを確認するには、Resource Node にログインして `C:¥ProgramFiles¥Cisco¥Media Experience Engine¥log` フォルダへ移動します。次に、現在の日付の LCS ログを開き、「PP Input」を検索してその特定の Resource Node によってトランスコードされたファイルを確認します。

## テスト 2：フォルダ アテンダントを使ったジョブの送信

### 作業を開始する前に

- `C:¥ProgramFiles¥QuickTime` フォルダで、`Sample.mov` を選択し、このファイルを `C:¥Media` フォルダへコピーします。
- `C:¥media` フォルダで、グループ内の Resource Node ごとに `Sample.mov` ファイルのコピーを 1 つ作成します。たとえば、4 つのノードがある場合、4 つのコピーを作成します。

### 手順

- ステップ 1** フォルダ アテンダントにアクセスします。「Cisco MXE 3500 ツールへのアクセス」も参照してください。
- ステップ 2** フォルダ アテンダントが監視するディレクトリを追加します。
- ツールボックスで、[Folder Attendant] をクリックします。
  - [Directory] ドロップダウン メニューで、[Add] を選択します。[Directory] フィールドが [Folder Attendant Administration] ページに表示されます。
  - [Directory Path] フィールドに `C:¥media` と入力し、必要に応じてその他のフィールドを入力します。
- ステップ 3** ディレクトリにウォッチを追加します。
- ツールボックスで、[Folder Attendant] をクリックします。
  - ウォッチを追加するディレクトリを強調表示し、[Watch] ドロップダウンで [Add] をクリックします。[Watch] フィールドが [Folder Attendant Administration] ページに表示されます。
  - [Watch Extensions] フィールドに、`MPEG-4` と入力します。
  - [Job Profile] フィールドで、[Cable\_Broadband] を選択します。
  - 必要に応じてその他のフィールドを入力します。
- ステップ 4** ツールボックスで、[Monitoring] を選択してから [Job Status] を選択します。
- ステップ 5** `Sample.mov` ファイルのすべてのコピーを、`C:¥media` フォルダから `¥¥Resource_Mananger_IP_Address¥watch` フォルダへドラッグします。
- ステップ 6** [Job Status] ペインを見て、ジョブが開始して完了するのを確認します。

- ステップ 7 `¥¥Resource_Mananger_IP_Address¥output` へ移動し、複数の `FileName.Sample.Cable_Broadband.Cable_Broadband.wmv` ファイルを見つけてファイルを再生します。Windows Media Player で警告メッセージやアラートが表示された場合は承諾します。
- ステップ 8 Resource Node が完了したトランスコード ジョブを確認するには、Resource Node にログインして `C:¥ProgramFiles¥Cisco¥Media Experience Engine¥log` フォルダへ移動します。次に、現在の日付の LCS ログを開き、「PP Input」を検索してその特定の Resource Node によってトランスコードされたファイルを確認します。
- 

## テスト 3 : ライセンス機能が有効であることの確認

- 機能ライセンスをインストール後、ライブ取り込み機能が有効であることを確認するには、以下のセクションを参照してください。
  - 「ライブ WMV IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー」(P.3-3)
  - 「ライブ Flash 8 および H.264 IP ストリーミングによる Cisco MXE 3500 展開の設定ワークフロー」(P.3-5)
- 機能ライセンスをインストール後、音声文字変換機能またはグラフィック オーバーレイ機能が有効であることを確認するには、以下のセクションを参照してください。
  - 「音声文字変換の設定ワークフロー」(P.3-7)
  - 「グラフィック オーバーレイ機能の設定ワークフロー」(P.3-9)